

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01180

研究課題名(和文) 米国での認知症高齢者を師とする人生語り・記録の多世代協働とコミュニティ教育の展開

研究課題名(英文) Development of Lifelong Learning Sharing Life Stories of Older Adults with Dementia by Intergenerational Collaboration in the US

研究代表者

鈴木 七美 (Suzuki, Nanami)

国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授

研究者番号：80298744

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：米国と日本の認知症高齢者のウェルビーイングを向上させる実践と課題に関するコロナ禍期間を含む比較文化的調査研究をとおり、高齢者の交流の多様性と交流力の拡充に向けた多世代協働が照射された。

高齢者を核とした多彩な交流は、変化のなかでライフサイクルを渡ってゆくすべての人のウェルビーイングに深くかかわっている。そこで、高齢者ケアの枠に留まらない、生活文化伝承と議論の機会を与える多世代交流に向けた生活時間と環境の充実という観点から、エイジング(エイジ)フレンドリー・コミュニティを開発するための知見を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢者のウェルビーイングに関し、多彩な交流を経験する交流力の充実が「老年的超越」として知られている。コロナ禍下の認知症高齢者を含む高齢者の交流に関する現地調査研究によって、高齢者の交流力とともに、高齢者のために生活環境を整えようと努力する若い世代にとっても世代間交流が不可欠の意義ある要素であることが明解となった。高齢者のみが居場所を得て心地よく暮らせるという「エイジング・イン・プレイス」を探求するのではなく、日常生活のリズムやライフサイクルにおける節目において多世代が多様な交流の機会を得る環境としてのエイジング(エイジ)フレンドリー・コミュニティ開発に向けた知見を具体的に提示した。

研究成果の概要(英文)：In this research, I considered multigenerational collaboration aiming for fostering communication that responds to the multilayered and expansive nature of older adults' interactions based on the comparative cultural perspective on the practices and challenges improving the wellbeing of older adults living with dementia in the U.S. and Japan, including the period of the crisis of coronavirus infection.

Varieties of relational experience woven with older adults at the core deeply connected to the well-being of people of all generations that reorganize their lives under changing circumstances in their lifecycle. Therefore, I presented thoughts and practices towards developing aging (age)-friendly communities in terms of enrichment of living time and environment for people to communicate and discuss lifestyle and culture traditions, not just caring for older adults.

研究分野：文化人類学

キーワード：エイジング・イン・プレイス エイジング(エイジ)フレンドリー・コミュニティ 超高齢社会 ライフロンクラニング コミュニティ教育 認知症高齢者 多世代協働 生活文化伝承

## 1. 研究開始当初の背景

(1)高齢化する21世紀社会の課題のなかでも、認知症高齢者のウェルビーイングは、喫緊の課題となっている。認知症は、原因や症状に多様性があり、完全治療は困難である病の一つだが、なかでも認知力低下の進行が、本人や家族をはじめとする周囲の人々との関係性を紡ぐことを難しくさせ、さらにこの関係性のありかたが病状に影響を与えることが観察されている。こうした観点に配慮し、認知症者の生活環境をいかに構築していくかが注目されている。

(2)高齢化する社会の生活環境デザインとして、高齢者のウェルビーイングに応える環境は、全ての人々が充足して共に生きる「エイジング(エイジ)・フレンドリー・コミュニティ」を構想することに他ならないという視点が注目され、学際的研究と公的機関、企業、市民が参加する実践が世界各地で精力的に進められている。そして、認知症高齢者のウェルビーイングに注目し、家族や周囲の人々とかかわりつつコミュニティの構成者として暮らしていける認知症フレンドリー環境を摸索することは、すべての人が孤立せず暮らすエイジング(エイジ)フレンドリー社会を構想する重要な契機となる。

## 2. 研究の目的

(1)本研究は、超高齢社会において、認知症高齢者やその家族の生活の質の低下をどう解決するかという実践的課題を出発点として、多文化・多世代が、認知症高齢者を含む高齢者との交流に、どのような経験を紡ぎ意義を見いだしているのか、またそうした場はいかにして実現できるのかに関する情報を、現地調査研究にもとづき提示することを目的としている。

(2)本研究は、とりわけ、社会の高齢化とともに課題として認識されている認知症やうつ傾向のある高齢者のウェルビーイング向上に注目し、地域生活において豊かに交流し生活してゆく方途と課題を探る。認知症高齢者をただケアされる存在とはみなさず、周囲と交流し影響を与え合う、人生の伴走者として捉える視点で研究を行う。

多文化・多世代が、認知症高齢者との交流に、どのような経験を紡ぎ意義を見いだしているのか、またそうした場はいかにして実現できるのかが本研究の問いである。本研究は、高齢者のニーズを契機として全ての世代の生活環境を再考・開発するエイジング(エイジ)フレンドリー・コミュニティ(AFC)に関する研究蓄積を生かし、本活動の現地調査研究を進め、日本で実践する条件を明示する。

## 3. 研究の方法

(1)本研究は、認知症、認知に問題があるとみられる状態、うつなどの傾向があることは、高齢期を生きる人々誰もが経験しうる状態と捉えたうえで、現代の超高齢社会における認知症高齢者の生活の質の向上を目指して実践される活動に注目し、その特徴や課題を明示する。認知症の傾向のある人々を含む生活に困難を感じつつ高齢期を生きる人々にとってのウェルビーイングの捉えられ方やそれを向上させようとする実践について、セルフ(自己)のありかた、社会的孤立や疎外感の問題に配慮し、高齢者が暮らす場や利用する施設において現地調査を行い、比較文化的視点で分析する。

(2)米国において、とくに音楽やモノとの触れあいなどをとおして精力的に行われてきた実践について、その文化的背景やエイジ(エイジング)フレンドリー・コミュニティという観点との関連について検討する。

(3)ひろく認知症高齢者と深くかかわる、認知に困難を抱える高齢者、うつ症状やひきこもり傾向がみられる高齢者を対象として行われてきた日本における実践について、文化的背景を含め検討する。

(4)収集した情報にもとづき、高齢期の人々のウェルビーイングの向上にかかわる、多様な存在とのコミュニケーションや文化伝達・コミュニティ教育の実現に向けた多世代協働が、すべての世代が居場所を得て心地よく暮らす「エイジング・イン・プレイス」を充足する時空間について考察を深め、成果を発信する。

## 4. 研究成果

(1)認知症高齢者の孤立緩和に向けた実践に関する現地調査研究を比較文化的視点に基づき行っ

た。米国で認知症高齢者のウェルビーイングの向上を目指して行われてきた実践について、とくにコミュニティの資源を活用した内容に関し、現地調査を含め蓄積してきた情報を分析し、認知症高齢者を含む高齢者を日常生活のなかでケアするという交流の目的とその文化的背景を探った。それらは、宗教など、高齢者とそのケアにかかわる人々に共有される価値観や習慣に基づく協働活動のありかたである。米国における施設にボランティアが常にかかわる習慣、教会を利用した合唱などの実践、生活コミュニティに共有されるコミュニケーションのきまりと習慣について、情報を蓄積し検討した。

ナーシングホーム(老人ホーム)に居住する認知症高齢者を「バディ」(仲間)と捉え、対話の訓練を積んだボランティアが「ブリッジ」(つなぐ者)として継続的に訪問する実践においては、認知症高齢者が多様な交流を経験できることにとどまらず、ブリッジにとっても自らの人生やアイデンティティについて考察する機会となることが、現地調査研究から浮かび上がった。こうした対面で語り合う経験は、環境が整備され安全が確保された施設で行われているという点や、ボランティアが施設における実践にホスピスチームなどとして常に関わってきたという経験と習慣に支えられている。他方、博物館や美術館などの機関を利用したモノ作りや鑑賞などの事業や、教会などを利用した合唱などの共同実践においては、ミーティングを運営するスタッフや指導者などの専門職者以外に、認知症高齢者のケアを担うケア者や家族の同伴が必要となっている現状が見いだされた。(引用文献 )

キリスト教再洗礼派という特定の宗教や哲学をベースとして運営されている高齢者ケアコミュニティやアーミッシュの生活コミュニティにおいては、互いに経済的な領域も含めて支え合うことが信条となっている。その理由として、激動する社会の中で、心身の変化を経験しつつ生きる人々は、生老病死の経験に満ちたライフサイクルを渡り生きてゆくためには、多世代や多様な文化的背景を持つ者が、近くでともにいて、その時々ウェルビーイングのありかや生活信条について絶え間なく語り合うことが不可欠と認識され、そして人々のアイデンティティを構成していることが明確となった。さらに、こうした生活信条あるいは哲学は、弱者に対するケアのみならず、次世代を育成する際にも基盤を構成していることが明確となった。(引用文献 )

(2)認知症高齢者のウェルビーイング向上を目指した日本における協働実践について、主として米国に関し蓄積してきた知見を参照し比較的に検討した。

コミュニティ資源を生かした認知症高齢者の交流のありかたを、多世代協働、文化創造・共有と伝承という観点から検討した。過疎化の進む町において、高齢者に適的な産業を振興したことにより、高齢女性が長期にわたって収入を得て地域の活性化を担ってきた地域の変化として、高齢者施設が利用されるようになったことがあげられる。認知症の症状がみられるようになった高齢者は、近隣に設けられた施設に居住することによって、継続的に家族や町の内外からやってくる若年世代と面会し、地域産業に関する経験を共通の話題について対話するという状況が観察された。認知症高齢者ケアという観点ではなく、地域振興に多世代・多文化がかかわる実践が、多様な人びとの交流を充実させる可能性が明示された(引用文献 )。

コロナ禍における高齢者の孤立緩和に向けた実践に関する現地調査研究を比較的視点に基づき行った。具体的には、高齢者のウェルビーイングに資するとされるヒーリングアートのなかでも、歌唱、体操、文化的背景に関する会話などを含む音楽レクリエーションに注目し、その意義と実施可能性に関し検討した。

コロナ禍下におけるような制限の続く状況において、高齢者の居住の場にかかわらず、ウェルビーイングに資する交流のありかたについて、いかなる可能性が開かれているのかを現地調査研究に基づき探り、工夫されてきた多様な交流の意味と意義について考察した。(引用文献 )

(3)認知症高齢者のウェルビーイングのあり方に関し、研究期間中に蓄積してきた現地調査研究に基づき、セルフ(自己)のありかたを充足する交流に関し、認知症高齢者にとどまらず、人々にとって必要な活動の意味や意義について考察した。高齢者の生活環境において何が孤立感を緩和しエイジング・イン・プレイスに資するのか、それら要素が多様な世代の人々のウェルビーイングといかに関わるのかについて検討しその成果を提示した。(引用文献 )

<引用文献>

鈴木 七美、新曜社、認知症高齢者のエイジング・イン・プレイスに向けた協働、エイジングフレンドリー・コミュニティ 超高齢化社会における人生終章の暮らし方、2019、85-101

鈴木 七美、国立民族学博物館、Collaborating for Aging in Place for Older Adults with Dementia, Aging-friendly Communities to Nourish Life as A Whole: Savoring Well-being in Communicating with People and the Universe (Report of JSPS KAKENHI Grant Number JP18K01180)、2023、47-55

鈴木 七美、大阪大学出版会、アーミッシュキルトを訪ねて 照らし出される日々の居場所へ、

2022

鈴木 七美、Berghahn、Creating an Age-Friendly Community in a Depopulated Town in Japan: A Search for Resilient Ways to Cherish New Commons as Local Cultural Resources、The Global Age-Friendly Community Movement: A Critical Appraisal、2019、229-246

鈴木 七美、終わりなき交信から生まれるエイジング・イン・プレイス 認知症高齢者の孤立感の緩和から考える、老年精神医学雑誌、34(7)、2023、674-681

鈴木 七美、Weaving Flexible Aging-friendly Communities Across Generations While Living with COVID-19、Anthropology and Aging、41(2)、2020、155-166

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴木七美	4. 巻 34-7
2. 論文標題 終わりなき交信から生まれるエイジング・イン・プレイス 認知症高齢者の孤立感の緩和から考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 674-681
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木七美	4. 巻 37
2. 論文標題 エイジングフレンドリー・コミュニティにおける「いのち」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 比較文明	6. 最初と最後の頁 115-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Nanami	4. 巻 41
2. 論文標題 Weaving Flexible Aging-friendly Communities Across Generations While Living with COVID-19	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Anthropology & Aging	6. 最初と最後の頁 155 ~ 166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5195/aa.2020.311	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki, Nanami	4. 巻 143
2. 論文標題 The World of Amish Quilts: Seeking Ways of Living, Weaving the World - A Thematic Exhibition at the National Museum of Ethnology, Osaka, Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Blanket Statements (American Quilt Study Group)	6. 最初と最後の頁 11-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 鈴木七美
2. 発表標題 出産の歴史人類学からみえてきた『母性のちから』 ケアと協働から考える
3. 学会等名 日本周産期メンタルヘルス学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木七美
2. 発表標題 エイジングフレンドリー・コミュニティにおける『いのち』
3. 学会等名 第38回比較文明学会大会 シンポジウムIII「社会・文明・思想から『いのち』を考える」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Suzuki, Nanami
2. 発表標題 'Thematic Exhibition: The World of Amish Quilts: Seeking the Way of Living, Weaving the World' in 2018 at the National Museum of Ethnology (NME) in Osaka and Its Development
3. 学会等名 2019 Amish Conference: Health & Well-Being in Amish Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Suzuki, Nanami
2. 発表標題 The World of Amish Quilts: Seeking Ways of Living, Weaving the World: A Thematic Exhibition at the National Museum of Ethnology in Osaka, Japan
3. 学会等名 AQSG (American Quilt Study Group) 2019 Seminar: Uncovering Together (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木七美
2. 発表標題 アーミッシュにおける豊かな社会 インテンショナル・コミュニティの交流史から
3. 学会等名 比較文明学会関西支部第40回例会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Suzuki, Nanami	4. 発行年 2023年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 130
3. 書名 Aging-friendly Communities to Nourish Life as A Whole: Savoring Well-being in Communicating with People and the Universe (Report of JSPS KAKENHI Grant Number JP18K01180)	

1. 著者名 鈴木七美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 310
3. 書名 アーミッシュキルトを訪ねて 照らし出される日々の居場所へ	

1. 著者名 鈴木七美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 256
3. 書名 エイジングフレンドリー・コミュニティ 超高齢化社会における人生終章の暮らし方	

1. 著者名 Stafford, Philip B. ed. (Suzuki, Nanami ほか16名)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Berghahn	5. 総ページ数 272
3. 書名 The Global Age-Friendly Community Movement: A Critical Appraisal	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------